

第二章

羞恥心は  
反革命的  
である



性、この日常的でありながらいつも神秘的な部分を残したものの、  
或いはこと、儀式。

この章の作者の性別内訳は女6、男3、不詳1で、断然とした女  
優位である。つまり女は、現実の優位をまだ獲ていないから、こ  
ういふ場所では男を圧倒する。さらにいうなら、作品内容において、  
男はいわば一通りの出来であるのに対して、女は激しく日常を超え  
た突出を試みている。

# 詩

（きりぎり）

旗をクルクルッまいて  
しつぽをクルクルッまいて

あ、今日もやった

ぬめぬめした私の身体を

同じく

べとべとしたあいつの体に押しつけて

抱いて

うっとかみあげてくる嘔吐  
あふれる程の精液あびて

浮き上がり……………

離すまいと……………

必死にしがみつき……………

明日こそ

旗をたてようと思ひ

あ、今日もやった



# 「ざあ・せつくす」より

愛の営みをすればするほど、革命をしたくてたまらなくなる  
革命をすればするほど、愛の営みをしたくてたまらなくなる

羞恥心は反革命的である

君のスボンの前を開くように、君の頭脳を開放せよ

セックス、それは結構なものだ、と毛沢東がいった、過ごすな、とも  
まえには離婚と墮胎の無条件な自由のために唱えられていたあの同じ  
主張——「女性の解放」「個人の権利の擁護」「母親の保護」——が  
いまでは、離婚と墮胎の制限や完全禁止のためにくりかえされている  
のだ

〔トロッキー「裏切られた革命」より〕

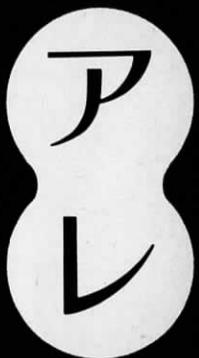
某氏曰く、性病とは、元来人間のものではなく、豚や馬や犬のもので  
あったということである。

斗うと同時にキスをしよう

社会革命と性革命は、唯一の同じものでしかない

仙台・女子高校生グループ機関紙「ざあ・せつくす」No.23 無署名





■境  
勝

なんてこんな

暗いねんやろ

暗い、暗い、暗い。

なんてこんな

くさいねんやろ

くさい、くさい、くさい。

いつからこんな

暗いねんやろ。

ずっと昔からやろか？

それとも、アレが、ここにのさばってからやろか

どこから、こんな

においがくんねやろ

この土地のにおいやろか？

それとも、アレが、においよんねんやろか

わからへん。

なんてやろ。

みんなさわいでるけど、

ちよつともどうもならへん。

なんてやろ

暗いなあ

くさいなあ

# 春庭花

■上野 菊江

華麗な檻

こむらと腿をかたむけて  
輪姦される

かさねる腹のうちがわに湧き  
とめどなくたぎる拍手

拍手はさかんにこだまして  
東洋の過去へ

のつとくちづけ  
アフリカの未来へむけて

しなをつくる  
およそ人間のふるさと

腿をひらけば  
どの男にも属することができ

ふるさとはずでに春  
華麗な檻に飼われているのを

どうするヤポン?

とりがいのあるものは

まもりがいのあるものだ

たえば

オキナワとはいわぬ

たえばクナシリ

エトロフとはいわぬ

岩礁六号(一九七一年五月号)

# 肉体は語るだろうか

■伊東 由季

焔につつまれて

幻の帝国をつくろうとしているのは誰だ。

声を低くして

お互いを紙め合っているのは誰だ。

静寂が始って

きまりのつかない空間を

肉体的なことばで埋めることはできないものか。

舌たらずの肉体を蠢めかし

相手に距離を与えないこと

それが燃え続ける唯一の道だと思わないか。

意識は

表皮を剥ぎ、血管を切り剥み、骨を砕く。

踏みにじられた肉体は

しだいに腐蝕し肉弾を失う

表皮と血管と骨を再度、

空間に投げこめ！

硫酸の臭いを嗅がすのだ

女め！ とりわけ恋人め！

傷ついた肉体は

まだ疼くともいうのだろうか。

我が肉体が頭部に駆けぬける時

あなたは もう 居ないというのに、

勝手な闇で捜しなさい

抱くことと抱かれることは

違うらしいのだ、

疲れ切った肉体が叫ぶ

王国よ！

酔っぱらいを駆り立てる

王国よ！

死の香りする

王国よ！

その姿を露わにするな！

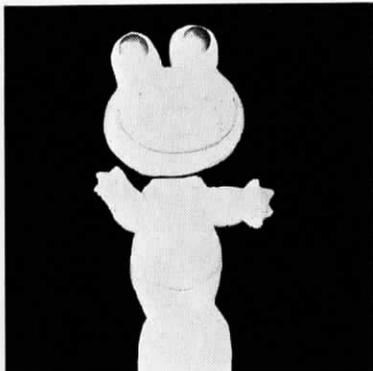
殺りくが始って

恋人が泣き始める。

# おへその上の詩

■和本公一

おへその上の繁栄だから  
おへその上の民主々義だから  
めんたまくり抜かれ  
真理をみつめるめんたまくり抜かれ  
あたしの尻から  
プー  
平和国家のお流れよ  
あれまあ  
今日も  
しあわせは下痢かい



# 裸像

■藤本 恵子

ここに

裸身の女がいる

もう 何世紀も

生きていて

一切の布さえ まとわず

この世をわたってきた

肉体は

時がたてば

たつほどに

妖しく輝き

その芯は

いつまでも

青白い ほのおを

燃やし続けている

だから

こそ

女一人

壁にかけられた

画額のように

冷たい瓦礫に

背中をのせても

今を

生きた

女は生身

数多くの男の間を

すりぬける

熱風のように

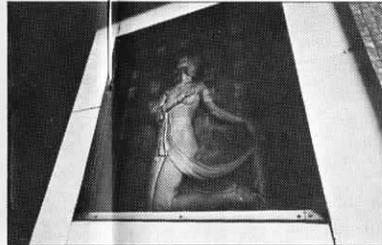
おそろしい程の重力に

何とか

体かわしつづ

女は 夫をもたない

裸身を



大多数の唾液の前に曝けだし

この 乳房

この なよやかな腰

心は

瞳孔をもたない 眼に

おさめられ

空の はるか上

遠い

無限大をさまよう

口づけなど

知らないような その唇に

わたしは

あなたは

とけこむような

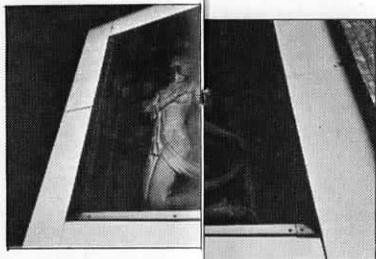
愛を告げる

ほおずりしつ

指切りした

その きやしやな手

沈黙は 美德だと



昔の人は

教えたのか

純潔は 守るべきだ

と

身動きひとつせず

悠久の男性を待つ

と いうのか

裸体の化石

だが

存分に

のびきった その肢体は

見る者の 心を

収縮する

大理石の 裸身

女が一人

永遠を生きようとする

# 二人寝の子守唄って何か母に聞け

## ■ひのもと

「ヘルメット被って駆けまわる男や女がいるなんて世の中間違ってあるんやないやろか」と

ブルドックに似た人殺しが言った

それはそうかも知れぬ

やっぱり女に飢え男に飢えた男女がいるんだから

太陽だって どっちから出ようか迷うこともある

なかには 男と女が向かいあっているのに

何もせずその言いわけを倫理道德に押しつける者もいる

同じメット被るのならアメリカンなんぞは

カッコがよくて

甲子園ボールでは青い目の人達もたくさん来る

だけどもあれもやっぱりまちがっていて

青い芝生の上では

目の色に関係なく男と女の祭典をくり広げるべきだ

もちろん生まれ来るのは十月十日後だから

二人でバイトすれば

医者に払う金位はたまるもんだ

紺のスカートなんて僕の前で早く脱ぎ捨てるべき

そうすれば青い汁の出る若草の味や

こがね虫の背中に乗って宇宙を見てまわってきたような

新しい人間社会に入ることができる

もちろんパンティの色の違いによって

見る夢に色がつくかどうかは未だわからぬことだけど

6・23には靱公園に十万人の人間が集まった

それは確かに何かの胎動だけだ

変な医者にかかれば無誤謬性のもとに

さっさと帝王切開されたりする

自然な形で愛の結晶を得ることができると

変な手術したがるなんて

ブルドック型論理の裏返しなんだけれど

彼等でもセクスするんだからわかりにくいヨ